

ロボット導入
第3弾！第3ターミナルへの最新型警備ロボット導入による更なる館内警備の強化
～成田空港の全ターミナルへの警備ロボット導入を実現！～

成田国際空港株式会社は、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたロボット導入の取組の第3弾として、最新型警備ロボットを第3ターミナルに導入します！

成田空港では、2019年6月に自律走行型巡回監視ロボットであるセコム社製「X2」を第1ターミナル及び第2ターミナルに計4台導入し、館内警備の強化を行ってまいりました。

今回、更なる旅客数の増大が見込まれる第3ターミナルへの警備ロボットの導入にあたり、足回りの面積が小さく、人込みや狭い通路等での機動性が高いSEQSENSE(シークセンス)社製「SQ-2」を選定しました。全ターミナルに警備ロボットを配備することで、人とロボットの力を融合させた、より高度で効率的な館内警備を実現していきます。

成田空港では今後も最先端ロボットの活用により、様々な業務の自動化・省力化に向けた取組を進めてまいります。お客様にとって「安全・安心・快適」な空港を実現して参ります。

導入概要

1. 機種： SEQSENSE SQ-2（シークセンス エスクューター） × 1台
2. 導入日： 2020年2月4日（火）
3. 用途： 立哨警備及び巡回警備※の更なる高度化・効率化
※巡回警備は順次運用開始予定
4. 導入エリア： 第3ターミナル 国際線出発(出国手続き後エリア)



「SQ-2」について

<主な仕様>

- ・重量：65kg
- ・サイズ：129.5×51×50.6cm
- ・連続稼働時間：6時間

<主な特長>

- ・足回りの面積が小さいため、人込みや狭い通路等での機動性が高く、狭く入り組んだ構造の施設警備に親和性がある。
- ・特許を有する空間認識3Dセンサーにより、高度な自律移動性能を有している。
- ・遠隔でリアルタイムでのロボットの操作・監視が可能である。
- ・360度カメラにより、一度に広範囲にわたる映像監視が可能である。

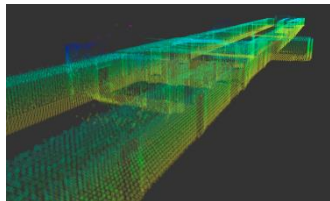


第3ターミナル内を巡回警備している様子

【別紙1】 機能詳細

3D LIDAR

独自の3D LIDARを搭載。環境の三次元モデリング、移動物体や歩行者の発見、日常と異なる環境の変化を自動的に検出します。人間や固定カメラなどでは難しい夜間や暗部、死角となる部位のセンシングも可能です。



360°Camera

周囲 360 度を撮影可能なカメラを搭載。警備拠点の遠隔モニターによりロボット周辺をリアルタイムで監視することが可能です。



Microphone

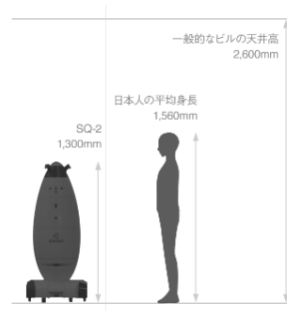
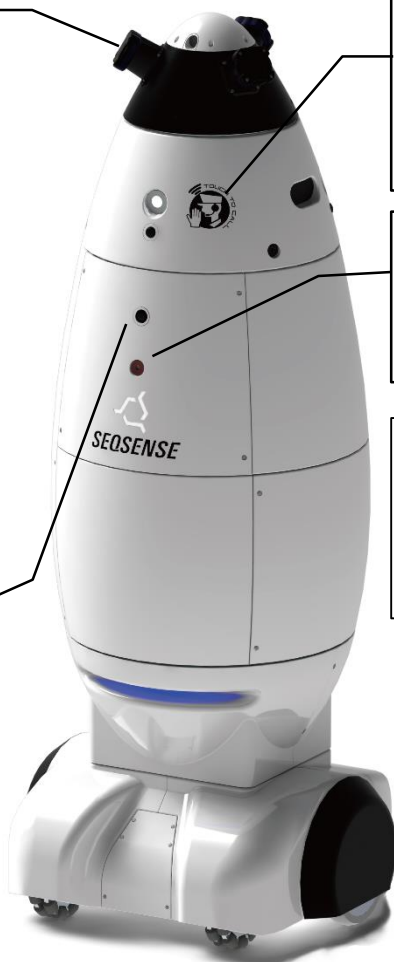
マイクとスピーカーを搭載。ロボットの警備マークに手をかざすと、警備拠点と繋がり警備員と通話することができます。

Thermal Camera

人間の目では難しい、火災等のリスクとなる異常熱源を感知することが可能となります。

Auto Charging

自動充電機能を搭載。バッテリー残量が減少した場合、自動的に充電ステーションに帰還し充電します。充電のオペレーションは一切不要です。



重量	65kg
寸法	1295.3 × 510 × 506 mm
稼働時間	最大10時間（実稼働6時間）
充電時間	フル充電90分（実務上は45分）
走行速度	秒速40cm（時速1.4km）

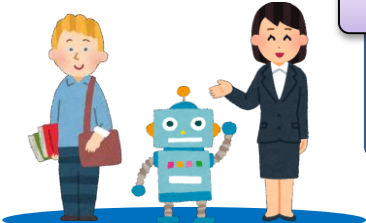
【別紙2】 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたロボット導入の取組

成田空港では現在、最先端ロボットの活用による業務の自動化・省力化の取組を進めています。空港をフィールドとしたロボットの更なる活躍にご期待ください！



【第5弾】（2020年夏予定）

インタラクティブなインターフェースを持つ案内ロボットの導入



【第4弾】（2020年春予定）

多言語情報発信を行うサイネージロボットの導入

【第3弾】（2020年2月～）

警備ロボット「SQ-2」の導入

今回導入！



【第2弾】（2019年11月～運用中）

清掃ロボット「Neo」及び「MB-CL02」の導入



【第1弾】（2019年6月～運用中）

警備ロボット「セコムX2」

ターミナル内の巡回・立哨警備に導入（計4台体制）



上記第4弾及び第5弾の取組は現時点での予定であり、導入時期が変更または中止となる場合があります。